

先進国初！日本初！

『能登の里山里海』 世界農業遺産に！

日本そして先進国では初めて『能登の里山里海』（羽咋市以北）が世界農業遺産に認定された（世界で12地域目）。認定された一番の要因は、能登の人たちが能登の里山里海を愛し、昔からある伝統や風習、文化を大切に守ってきたことが挙げられる。

能登の人たちは、日常生活から身近な里山里海の利用保全に尽くし、伝統や風習を守り、そして付加価値を高め、世界に誇れる里山里海を形成してきた。国連食糧農業機関（FAO）のパルヴィス・クーハフカン水資源部長は「これほど、自然や産業、伝統が融合し、すべてのものが自然美として残る地域は世界でも少ない。『能登の里山里海』が世界のモデル地域になることを期待したい」と絶賛した。これからは、能登半島の経済に与える波及効果は期待できる半面、世界に誇れる『能登の里山里海』を大切に守っていかねばならない責任が伴う。また、山と海、農林水産業が一体となった持続的な農業生産システムなどの取



『GIAHS国際フォーラム』（6月11日 北京市内）

り組みが必要とされるなど、これまで通り『能登の人』が環境保全に直接携わり、行政や産業界などが、世界農業遺産の称号をどう活かすかが今後の課題とされる。

日本で初めて世界農業遺産に認定された地域に住む私たち『能登の人』は、これから求められるものに十分に 대응することができる。また、世界に誇れる自然環境に生活していることを認識する大きなきっかけとなった。

〔七尾市の地域資源で 主に評価されたもの〕

- 中島菜 ● クチコ
- コノワタ ● 定置網
- 七尾西湾のカキ棚
- はぎ干し ● 棚田
- キリコ祭り ● お熊甲祭
- 青柏祭 ● 向田火祭り

世界農業遺産とは何？

世界農業遺産（世界重要農業資産システム）とは、国連食糧農業機関が平成14年から開始したプロジェクトで、次世代へ継承すべき重要な農法や生物多様性などを有する地域を認定するものです。

ユネスコの世界遺産との違いは何？

次世代への継承を目指す点は共通していますが、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産は遺跡や歴史的建造物、原生的な自然を登録対象としているのに対して、世界農業遺産は、現在も営まれている重要な農業活動、生物多様性、農村景観などを有する地域を認定するものです。



5月28日：七尾市立山王小学校

東日本大地震で被災した宮城県多賀城市に同じ学校名があるとわかり、4月に義援金などを届けた。そのきっかけから、PTA役員が「被災地の復興への願い、また、来年新校舎となるため、思い出が詰まった校舎への感謝の気持ちを込めて朝顔の種3粒が入った風船を飛ばそう」と発案。運動会では全児童394人が「We love 山王!」と声をかけ、一斉に飛ばした。大空に飛んだ風船は、偶然にもハートの形をして被災地に向かって飛んだ。

ウィ
ラブ 山王！
復興へのねがい 山王小学校運動会



5月15日(日)：愛宕山相撲場

今回の参加者は男女合わせて28人。女の子が男の子に勝つ場面もあり、盛り上がっていた。天神山小学校1年生田中龍馬君は「相手は強かったけど、楽しかった」と照れくさそうに話し、お母さんは「普段見ない龍馬を見て男らしく感じた」とわが子の成長を感じていた。大相撲の問題、学校で相撲場が消えるなど、寂しい話題がある中、この大会は、小さな子どもが相撲道を経験する大切な大会となっている。

第25回わんぱく相撲七尾大会
全国への挑戦



6月9日(木)：崎山いちご生産組合ビニールハウス

大吞保育園とよつば保育園の4・5歳児23人が、崎山いちご生産組合のビニールハウスで『崎山いちご狩り』を体験した。ビニールハウスに入る前から、辺りはいちごの甘い香りが漂っていた。園児が入った途端、「えっ。いちごってこんな高いところまでできるの?！」と作業効率を考えた水耕栽培を見て、びっくりした模様。園児は満面の笑みを見せながら、真っ赤に色づいた崎山いちごを次から次へと頬張っていた。

いちごみつけた！
えっ！いちごって・・・



6月4日(土)～5日(日)：和倉温泉

地元七尾市を中心に、東は東京、西はよさこいの本場高知県まで、過去最多の54チームが参加。各チームはわくわくプラザステージを中心に6会場で、華やかに踊りながら鳴子を轟かせた。会場には、地元の人や観光客、中には『おっかけ』など、多くの人が詰めかけた。大賞に輝いたのは過去最多4回目を受賞した『能登國涌浦七士』。『能登よさこい祭り』が終わるとともに、能登の國はキリコ祭りなど、祭りムード一色になる。

第15回能登よさこい祭り
鳴子轟く 和倉のまちに



6月20日(月)：自宅(佐々波町)

「何が何でもという気持ちだけで、生きるのに一生懸命だった」と人生を振り返る。若い頃に夫を亡くして以来、一家の大黒柱として言葉にできないほどの苦労を重ね、3人の子どもを育てあげた。周りの親戚の方々に助けられたと今でも感謝の心は忘れない。新聞を読んだり、地域の集まりに参加したりして毎日を過ごす。週1回デイサービスにも通い、楽しい日々を送っている。

森下 きくのさん
100歳おめでとうございます



6月14日(火)：西湊保育園

西湊保育園の園児69人と保護者約10人などにより「なかよし花壇」造成式が行われた。なかよし花壇は、「な=なかよく、か=かばいあい、よ=よい子の、し=しあわせ花壇」の頭文字をもじったもの。園児が花を育てることにより、思いやりの心を養おうとする人権啓発活動のひとつ。花植え作業が終わると、園児たちは「今日植えた花を友達と一緒に大事にします」と大きな声で誓っていた。

「なかよし花壇」づくり
みんなで仲良く思いやりの心を